

1 背景と目的

- 前回県史から40年以上経過し、学術的に歴史研究が進展している。
- 世代交代や大規模災害の発生等により、貴重な歴史資料の散逸が懸念される。
- 戦時世代が80歳以上となり、聴き取り調査の限界を迎えている。



県政150年にあたる令和3年度から県史編さんを開始

本県のあゆみを後世にしっかりと伝え残すことで、本県の歴史への理解と郷土への愛着、歴史研究を担う人材を育成するとともに、成果を教育での活用や観光振興につなげていく。

2 編さんの基本的な方向性（高知県史編さん基本方針 R3.10策定）

(1) 目的

- 本県の歴史の変遷を解明し、本県の学術・文化の振興に寄与する
- 歴史資料を悉皆的に調査し、後世へ伝え残す
- 歴史研究を担う人材を育成する

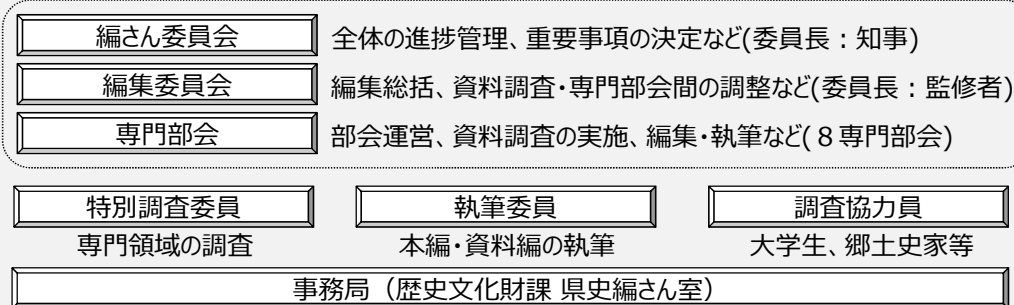
(2) 方針

- 日本と世界の歴史の流れの中で、本県の歴史的な変遷をとらえる
- （本編）図版等を多く活用し、県民に分かりやすく親しまれる記述にする
- （資料編）本県の特徴的な資料を採録し、地域の偏在がないように心がける
- 資料はデータ収集を原則とし、将来的に幅広く利活用できるようにする
- 市町村や関係団体と連携し、多くの県民が携わる体制をつくる

(3) 構成、期間及び計画

構成：古代・中世、近世、近代、現代、考古、民俗、文化財、自然（8分野）
 期間：20年間（令和3～22年度）
 計画：概ね5年ずつ4期に分けて進捗を管理し、必要に応じて計画を見直す

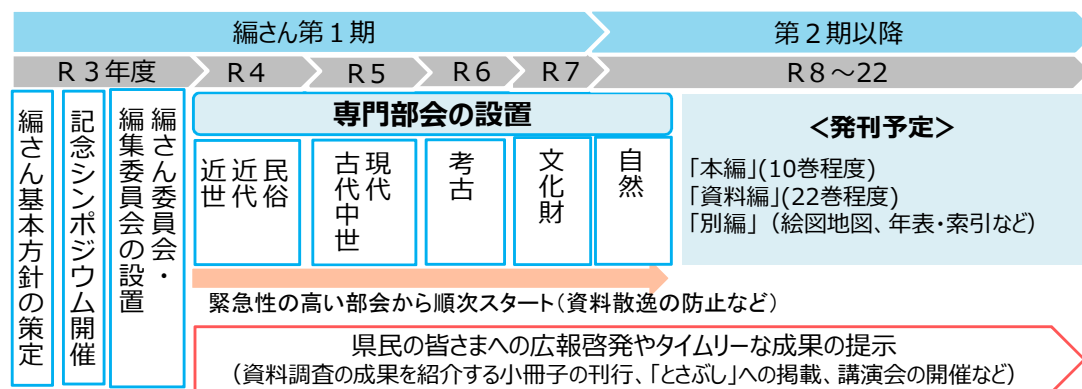
(4) 組織



3 新県史の概要と全体スケジュール



	新県史	【参考】 前回県史
編さん期間	20年間（R3～22）	15年間（S38～52）
構成	計35巻程度を想定 ＜前回県史に現代・文化財・自然を加えた8分野＞	計10巻（本編5＋資料編5） ＜考古・古代中世・近世・近代・民俗の5分野＞



4 令和6年度の主な取組



(1) 編さん体制の構築・運営〔25,725千円〕

- 「考古部会」の設置
- 編さん委員会及び編集委員会の開催
- 『高知県史』編さん第1期計画（考古部会）、及び編集方針の作成（各専門部会）

(2) 歴史資料調査の実施〔54,642千円〕

- 各専門部会による歴史資料調査の実施
- 歴史資料の収集等を目的とした調査委託（古代・中世史料の抽出、中世山城の測量）
- 資料編への掲載に向けた翻刻作業（古文書等の活字化）の実施
- 歴史資料の所在調査の実施（主に合併前の旧町村を訪問）



(3) 広報啓発・人材育成の実施〔4,265千円〕

- 広報誌の発行
 - ・文化広報誌「とさぶし」での県史特集…多彩な切り口から、高知の歴史の魅力を「より楽しく」紹介
 - ・資料調査の成果を紹介する小冊子…歴史資料の魅力や調査活動を「より詳しく」紹介
- 成果報告会の開催
- 資料調査を担える人材を育成する「歴史資料調査隊」養成講座の開催

『高知県史』編さん事業 令和5年度実績表

※記号は進捗の状況
◎：完了
○：概ね計画どおり
△：少し遅れあり

資料1－2－1

部会名 (設置年)	(1)編さん体制の構築・運営			(2)歴史資料調査の実施								(3)広報啓発・人材育成の実施				
	第一期計画 策定	編集方針 策定	部会 運営	資料調査				資料編の編集				※参考 初巻発刊 年度	広報誌の発行		成果報告会	
				部会調査		委託調査		項目・目次		資料の活字化・校正						
近世 (R 4)	◎	◎	5 回	・ 資料調査 6 回 調査資料群 3 件 資料点数 1,538点 撮影枚数 17,615枚	○	—	—	・ 項目の検討 ・ 目次案の検討	○	・ 翻刻 (資料の活字化) (※先行実施による掲載方法 の検討)	○	R 8 年度 (資料編 1)	文化広報誌「とさぶし」 ・ 艶やかで楽しい土佐の甘味 の足跡(R5. 9(44号))	○	・ 大津地区の古文書目録刊行 記念シンポジウム (土佐清水市、共催) ・ R5第2回高知城歴史博物館 出張講座（芸西村、共催）	○
近代 (R 4)	◎	○	4 回	・ 資料調査 10回 調査資料群 4 件 資料点数 572点 撮影枚数 49,862枚	○	—	—	・ 項目案の検討	○	—	—	R 9 年度 (資料編 2)	文化広報誌「とさぶし」 ・ 交通の近代化を推し進めた土佐 人(R5. 6(43号)) ・ 明治大正期の役場文書 (R5. 12(45号)) ・ 事務局の予備調査(旧土佐山 村)(R6. 3(46号))	○	—	—
民俗 (R 4)	◎	○	3 回	・ 資料調査 26回 調査資料 18件 民話項目リスト化 項目数 1,969項目	△	—	—	・ 項目案の検討	○	—	—	R 9 年度 (資料編 1)	文化広報誌「とさぶし」 ・ 鎌田港の民具調査(R5. 6(43号)) ・ 先生の紙芝居 土佐民話は続く (R5. 12(45号)) ・ 地域の歴史が記録される映画 (R6. 3(46号))	○	—	—
古代中世 (R 5)	◎	○	4 回	・ 資料調査 12回 調査資料群 7 件 古代資料 1件 373点 中世資料 6件 3,429点	○	東京大学史料編纂所 調査委託 ・ 本県関係資料リスト 作成 236件 (収集画像数 972枚)	△	・ 項目案の検討	○	—	—	R10年度 (資料編 1)	文化広報誌「とさぶし」 ・ 古代・中世部会の発足 (R5. 6(43号)) ・ 東京大学史料編纂所での資料調 査(R5. 9(44号)) ・ 事務局の予備調査(津野町) (R6. 3(46号))	○	—	—
現代 (R 5)	◎	○	4 回	・ 資料調査 49回 調査資料群 2 件 資料点数 21点 撮影枚数 6,896枚	○	—	—	・ 項目案の検討	○	—	—	R10年度 (資料編 1)	文化広報誌「とさぶし」 ・ 現代部会の発足(R5. 6(43号)) ・ 現代部会の資料調査(R5. 12(45 号)) ・ 海外移民(旧満州)関係資料 (R6. 3(46号))	○	・ R5第2回高知城歴史博物館 出張講座（芸西村、共催）	○
事務局	編さん委員会 1 回 編集委員会 3 回	○	・ 資料所在調査 14市町村 (全市町村完了)	○	・ クラウドシステムの活用による資料情報等 の共有化 システム導入 完了	◎	【人材育成の実施】 ・ 「歴史資料調査隊」養成講座の開催 ◇資料撮影(動画)・聞き書き編 修了者 7 人 ◇資料撮影(静止画) 修了者 10人 ・ 地元高校生の体験見学会 参加者 14人	○								

『高知県史』編さん事業 令和6年度計画表

部会名 (設置年)	(1) 編さん体制の構築・運営			(2) 歴史資料調査の実施					(3) 広報啓発・人材育成の実施	
	第一期計画 策定	編集方針 策定	部会 運営	資料調査		資料編の編集		※参考 初巻発刊 年度	広報誌の発行	成果報告会
				部会調査	委託調査	項目・目次	資料の活字化・校正			
近世 (R 4)	策定済	策定済	3 回	・ 資料調査 2 回 (※他に各委員の個別調査あり) 主な調査資料群 4 件	—	・ 項目の決定 ・ 目次案の作成	・ 翻刻(資料の活字化) 原稿用紙 2, 000枚分 (※全体の約50%)	R 8 年度 (資料編 1)	高知県史へのいざない(仮称) (資料紹介など 2 ページ予定)	検討中
近代 (R 4)	策定済	策定予定	4 回	・ 資料調査 2 回 (※他に各委員の個別調査あり) 主な調査資料群 2 件	—	・ 項目案の作成	・ 翻刻(資料の活字化) 原稿用紙 800枚分 (※全体の約20%)	R 9 年度 (資料編 2)	高知県史へのいざない(仮称) (資料紹介など 2 ページ予定)	
民俗 (R 4)	策定済	策定予定	5 回	・ 民俗調査 14回 ・ 地名収集調査 9 回 ・ 資料調査 〔民話・民謡の項目リスト 作成〕	—	・ 項目案の作成 ・ 掲載資料の選定	—	R 9 年度 (資料編 1)	高知県史へのいざない(仮称) (資料紹介など 2 ページ予定)	
古代中世 (R 5)	策定済	策定予定	4 回	・ 資料調査 2 回 (※他に各委員の個別調査あり) 主な調査資料群 7 件	東京大学史料編纂所 調査委託 ・ 本県関係資料のリスト作成 ・ 史料画像等の収集	・ 項目案の作成	・ 活字化資料の校正 古代史料 373件 中世史料 236件	R 10年度 (資料編 1)	文化広報誌「とさぶし」 ・ 戦国時代の武将が残した花押 (R6. 7 (47号)) 高知県史へのいざない(仮称) (資料紹介など 2 ページ予定)	
現代 (R 5)	策定済	策定予定	4 回	・ 資料調査 12回	—	・ 項目案の作成 ・ 掲載資料の選定	—	R 10年度 (資料編 1)	文化広報誌「とさぶし」 ・ スイカが拓いた高知の輸送園芸 (R6. 7 (47号)) 高知県史へのいざない(仮称) (資料紹介など 2 ページ予定)	
考古 (R 6)	策定予定	策定予定	6 回	・ 遺跡等調査 18回 遺跡・遺物選定作業用 リスト作成 80遺跡	山城遺跡測量調査委託 ・ ドローンを利用した三次元 測量調査 1 カ所(四万十市)	・ 項目案の検討	—	R 11年度 (資料編 1)	文化広報誌「とさぶし」 ・ 考古部会の発足(R6. 7 (47号)) 高知県史へのいざない(仮称) (資料紹介など 2 ページ予定)	
事務局	編さん委員会 1回 編集委員会 3回			・ 資料所在調査 (追加調査) 合併前の旧町村、未確認資料の追跡など		・ クラウドシステムの保守、運用			【人材育成の実施】 ・ 「歴史資料調査隊」養成講座の開催 ◇資料撮影(静止画)編 1 回 ◇史料解説編 1 回(4日間) ・ 地元高校生の体験見学会	

日時	項目	概要	要望者	関係する主な部会（予定）								対応の方向性
				古代 中世	近世	近代	現代	考古	民俗	文化財	自然	
R3. 11	よさこい祭り	よさこいは高知の特色ある祭りであり、調査をしてほしい	県議会議員				○		○			・県内の祭礼について、各地域にて調査中。取扱予定の伝統文芸等の項目と性質が異なるかと思うが、祭りは欠かせない項目。今後、部会にて取扱について、検討を進めていく。（民俗）
	移民関係 (旧満州, 南米)	旧満州からの引揚げ、また南米移民に関して調査をしてほしい				○	○					・前回県史にて取り上げた項目。部会内で協議し、担当委員を選任。具体的な調査については今後検討予定。（近代） ・令和5年度に満州移民について旧西土佐村にて、令和6年度は南米移民関係について海外資料に関する資料所蔵施設に聞き取り調査を実施。（現代）
R4. 4	南海トラフ地震	新たな県史では、南海トラフ地震など震災関係は、どのように取り上げられるのか	編さん委員	○								○各時代の専門部会において、南海トラフ地震など災害の歴史を取り上げる。 ・本編の構成案で、古代における地震など自然災害を取り上げている。（古代・中世） ・資料編の構成案で災害関係を取り上げており、資料調査を進めていく。（近世、近代） ・災害単体ではなく「くらし」との関連の中で問題を検討していく。（現代）
R4. 7	仁淀川水系の 水害	日高地区の水害の歴史について取り上げてほしい（鎌田堰の影響による洪水発生、村に明治以降の治水関係資料あり）	日高村		○	○	○	○		○		・物部町の久保高井の山崩れ伝説をはじめ、災害にまつわる伝承の残る地域での聞き取り調査を行っていく。（民俗）
R4. 9	大寺廃寺	高知市春野の大寺廃寺について、本県の古代史の解明が期待できるため、発掘等の調査をしてほしい	春野文化財友の会	○				○		○		・県内の古代寺院については、古代・中世、考古及び文化財部会において、地元自治体と連携しながら調査地の検討・部会協議を進めていく予定。（事務局）
R4. 10	ビキニ環礁被曝	新たな県史編さんにあたり、被災の実態を県としても調査・記録し、後世に広く伝えるよう記載してほしい	県議会議員				○					・ビキニ被災に限らず、重要な戦後の歴史を取り上げていく。（事務局） ・令和5年度に宿毛市、令和6年度に室戸市にて調査実施。（現代）
R4. 10	幡多地区の歴史	高知市中心の歴史だけではなく、幡多の歴史も取り上げてほしい（文武館、法然上人、迅衝隊など）	樋口真吉 顕彰会	○								・令和5年度に、幡多地域をフィールドとした資料調査を実施。（近世）（現代）（民俗） ・令和6年度以降も調査実施予定。（古代・中世）（近代）（考古） ・現代資料編では、高知県西部(主に幡多地域)に焦点をあてた構成を検討している。
R5. 4	昭和の教育	昭和時代の本県の教育史を知る方は年々少なくなっており、昭和の教育史に力点を置いてほしい	高知新聞 オピニオン			○	○	○		○		・令和4年度に高知小津高校の資料調査を実施。（近代） ・令和5年度に高知工業高校及び春野高校の校友会資料、土佐清水市旧大津小学校資料の調査を実施。（近代）（現代）
R5. 10	海外資料の調査	資料調査活動を県内にとどまらず、海外も視野に入れて積極的に行ってほしい	県議会議員	○								・本県に関する資料が海外にも所在することを把握している(戦争関係資料など)。そこで、現地の県人会などの協力のもと情報を収集し、必要性を精査したうえで海外調査を検討したい。
R6. 6	無形の文化財の 記録化	伝統工芸などの貴重な技術を次の世代に引き継ぐために、(製作過程などを)動画で残すなど、早く調査してほしい	県議会議員						○	○		・調査における資料採取は、できる限り写真や動画などデジタルデータで収集・保存している。 ・伝統工芸など無形の文化財は、関係の専門部会で協議のうえ調査を進めるが、収集したデジタルデータは、将来的に公開を検討しているデジタルアーカイブで共有するなどにより、次の世代への継承につながるよう取り組んでいきたい。

【古代・中世部会】令和 5～6 年度の活動について

(1) 令和 5 年 9 月以降の主な活動記録

- 令和 5 年 (2023) 9 月 9～11 日 部会による史料調査・撮影
 高知城歴史博物館・歴史民俗資料館所蔵・寄託の中世史料を調査
- 令和 5 年 9 月 10 日 第 2 回古代・中世部会 (於県史編さん室)
 第 1 期計画 (R5～7) の検討、資料編 1 (古代関係資料・県内所在
 文書 R10 刊行予定) の構成・体裁の検討、クラウド活用の検討
- 令和 5 年 12 月 1 日 第 3 回古代・中世部会 (ZOOM による)
 資料編 1 収載古代史料の体裁検討、史料目録・文献目録の作業進捗
 確認、合同調査の計画立案、事務局による調査報告
- 令和 6 年 (2024) 3 月 16 日 第 4 回古代・中世部会 (於東大史料編纂所)
 令和 5 年度事業の総括、史料目録・文献目録の作業進捗確認、令和
 6 年度計画の立案、事務局による調査報告
- 令和 6 年 3 月 17 日 部会による史料調査
 埼玉県立歴史と民俗の博物館寄託の金子家文書熟覧
- 令和 6 年 5 月 8 日 事務局と正副部会長ミーティング (ZOOM による)
 東京大学史料編纂所への受託業務について、資料編 1 についての編
 集方針の検討、部会調査計画の策定
- 令和 6 年 6 月 28 日 第 5 回古代・中世部会 (ZOOM) による
 資料編 1 にむけた各委員の作業分担を検討、クラウド環境における
 史料画像データ共有の確認、編集方針案の検討

(2) 東京大学史料編纂所における受託研究の進捗状況

- ・旧県史収載史料集 (土佐国蠹簡集・蠹簡集拾遺・蠹簡集木屑・蠹簡集竹
 頭・土佐国古文叢) の目録データ整備完了 (事務局と共同で)
- ・『土佐国編年史料控』収載史料の目録化 (2 巻目まで完了)
- ・史料複製画像データの整序 (影写本 62 件・デジタル史料 17 件)

(3) 事務局による作業進捗状況

- ・「資料編 1」古代部分の校正作業
- ・「蠹簡集」郡分け家分けテキスト生成作業 236 件 687 点
- ・「蠹簡集 (棟札他)」 同上 130 件 241 点
- ・「蠹簡集拾遺」 同上 50 件 60 点
- ・「蠹簡集拾遺 (棟札・金石文)」 同上 58 件 286 点

(4) 今後の活動予定 (R6 年度内)

○古代・中世部会の開催

9 月・12 月・3 月に部会を開催し、適宜、調査・編纂の進捗状況を確認する。

○調査・撮影

- ・ 7～8 月のうち 1 日程度 (室戸市最御崎寺「大般若経」)・・守田委員
- ・ 9 月 1～15 日の期間で部会調査を調整 (候補地：岡山県林原美術館「石谷家文書」)

○編纂作業

- ・ 古代史料については、体裁を確定のうえ、テキストの校正を進めて、版面イメージを決定する。
- ・ 旧県史収載の中世史料について、テキスト生成を完了し、画像データにもとづく校正作業を進めてゆく。写本のみ伝来する史料テキストについては、その校訂方法を確立し、版面体裁を検討してゆく。
- ・ 資料編 1 の編成にむけて、郡分・家分の目録案を具体的に組み立ててゆく。
- ・ 旧県史未収史料の収集、調査・撮影に努める。
- ・ 出土文字史料、銘文、棟札、聖教・典籍奥書などは、調査や編纂方法をめぐって、考古部会・文化財部会ほかと密接な協力関係を確立し、合理的な分業体制を確立する。

○古代・中世編の刊行予定

【1 巻】古代関係史料 編年配列

県内所在文書 郡別・家分・編年配列 令和 10 年刊行予定

【2 巻】県外所在文書 地域別・家分・編年配列

長宗我部氏関連史料 令和 13 年刊行予定

【3 巻】記録・典籍類 編年・書目配列

聖教類・奥書・金石文・文学関連史料

海外関係史料 令和 16 年刊行予定

令和5年度 近世部会の活動

(1) 令和5年度の主な活動記録

令和5年 (2023年)	5月13～15日	令和5年度第1回近世部会（対面） ・今後の調査計画及び史料調査（於 高知城歴史博物館） 平尾文庫・五藤家文書・加賀野井家文書等の調査を実施
	7月1・2日	第1回維新班調査及び協議 ・山内家の近代史料調査（於 高知城歴史博物館）
	7月3日	個別調査（東野委員） ・高知県立図書館所蔵（「大石勝彦氏史料」11点・「明神家文書」85点）の撮影を実施
	8月30日	令和5年度第2回近世部会（オンライン） ・史料編Ⅰに向けた作業報告 目次案作成や項目等の検討
	9月5～8日	令和5年度第3回近世部会調査（於 高知城歴史博物館） ・関田英里氏収集史料 県内外の大学院生・学生、委員総勢28名で史料カード採録、撮影を実施 →文書総数約1300点の内、8割終了 令和5年度第3回近世部会（対面） ・編集方針の検討、今後の翻刻作業について
	12月22日	令和5年度第4回近世部会（オンライン） ・史料編Ⅰに向けた取り組み及び次年度の計画について
	12月25～28日	令和5年度第4回近世部会調査（於 宿毛市立宿毛歴史館） ・「伊賀家古文書」223点の目録作成、撮影 →223点のうち95点を撮影
令和6年 (2024年)	3月17～19日	『高知県史 近世史料編』に掲載候補の史料の翻刻開始 ・県外の大学院生へ史料の翻刻を依頼 令和5年度第5回部会調査（関田英里氏収集史料・三谷家文書）於 オーテピア高知図書館 ・県内外の大学院生・学生、委員総勢37名で史料カード採録、撮影を実施 ・関田英里氏収集史料（約1300点）調査終了 ・三谷家文書（高知県立図書館所蔵） →約3500点のうち全体の約45%の調査終了

(2) 令和6年度活動予定

- ①年3回(5月・9月・12月)の近世部会開催
- ②年2回の部会調査実施(9月(三谷家文書)・3月(検討中))
- ③部会委員による個別調査
- ④史料編Ⅰの編集作業開始
→武家文書(山内家文書・五藤家文書・加賀野井家文書)等を中心に掲載史料の選定・検討

(3) 令和6年度以降の活動予定(史料編Ⅰに向けて)

令和7年度: 翻刻(随時)、翻刻校正、ページ数調整や口絵選定
令和8年度: 史料入稿→校正、解説執筆→入稿→校正→史料編Ⅰ刊行

※史料編Ⅱ～Ⅳも史料編Ⅰと同時に並行で調査、史料選定、翻刻等を行う

(4) 史料編の構成案について

(構成)	(ページ数)	(内容)
化粧紙	1	和紙
中表紙	1	厚紙
口絵	8	コート紙 カラー写真・図
序	2	編さん委員長(知事)
<u>はじめに</u>		
凡例	4	
目次	4	
解説	52	史料解説・解題など
史料	927	
史料提供	2	機関・個人
関係者名簿	2	
掲載史料一覧	4	
奥付	1	
計	1,010	

〈部会内の意見〉

- ・史料1点ごとに解説をせず、章・節ごとに行う
- ・細目次を入れ、掲載史料を探しやすいようにする

1, この1年間の主な調査活動

- (1)近代部会（第5回～第8回）を令和5年9月、12月、令和6年3月、6月の4回開催し、部会の活動方針と課題、刊行計画、資料調査の場所・方法などを議論すると同時に、長期的な刊行計画を着実に進めていくことを確認した。
- (2)第3回・第4回の部会合同調査を実施した。
- ①第3回合同調査（令和5年9月12～14日）は、安芸市立図書館所蔵の「安芸市旧役場文書」・「安芸市戸長役場文書」及び高知市立自由民権記念館所蔵の「細川家資料」「竹村家資料」などの調査、撮影を実施した。これには部会委員に加えて、高知大学学生・広島大学院生が参加した。
- ②第4回合同調査（令和6年3月26～28日）は、第3回に引き続いて、安芸市及び民権記念館所蔵の資料の調査を実施した。これには部会委員に加えて、高知大学学生・京都大学院生が参加した。安芸市立図書館に架蔵されている明治～昭和戦前期の行政文書については、一部未調査分が残ったが、ほぼ調査が終了し、現在必要資料の撮影を継続している。
- (3) 合同調査以外に各委員が独自に調査活動を続けた。オーテピア高知図書館、高知商工会議所、高知城歴史博物館、高知県議会図書室などの県内機関に加えて、県外の国立国会図書館や東大史料編纂所などで関係資料の調査を行った。これらの調査から得られた情報は部会全体で共有できるように体制を整えつつある。
- (4) 近隣県（徳島・愛媛）に所在する高知県関係資料の訪問調査を実施した（令和6年1月23～25日）。徳島県立文書館、同県立図書館、愛媛県立図書館、四国市立川之江図書館において、合県時代（明治8～13年まで高知県が土佐・阿波両国を管轄）の行政文書、維新期の松山・川之江占領関係資料などを閲覧し、いずれ撮影に入る予定である。
- (5) 近代編編集のための基盤資料を整備する作業に引き続き取り組んできた。すでに調査と撮影を終えた「旧池川役場資料」（仁淀川町）を整理しつつ、「戦前期高知県関係法令目録」の作成する作業を進める一方で、国会図書館所蔵の『職員録』（明治19年～昭和18年）を整理した「戦前期高知県職員録」の作成を続けた。

(6) 編さん室専門員が県内の市町村を訪問し、公文書・歴史資料が所在するかどうかの確認作業を進めた。その情報をもとに、須崎市役所・議会事務局、室戸市議会事務局・室戸市民図書館、四万十市民図書館・郷土博物館、土佐清水市議会事務局・旧中浜小学校資料室で、予備的調査を実施した。

2, 資料編の編集作業への取り組み

(1) 令和9(2027)年刊行予定の資料編第2巻(町村制施行～第1次世界大戦後のおよそ30年間を対象時期とする)の編集作業に委員と協議しながら、具体的に着手した。

①内容構成案の検討を引き続き進め、第8回部会において仮構成案を策定し、本格的な編集作業を進めていくこととした。第2巻を7部構成として、それぞれに含まれる主要項目・小項目を検討しつつ、担当する委員を内定し、これらについて各委員の了解を得た。

②各委員が担当する分野・項目に関して、掲載すべき資料候補の「資料名、作成年代、内容、採録基準、出典、撮影・翻刻状況などを記入する編集用シートを作成し、各委員の作業の進展を部会で統括する体制を整えた。

③これまで2年余の資料調査で得られた撮影データ、文献目録、旧高知市史編さん室・オーテピア高知図書館・民権記念館などから提供された画像データについて、委員間で共通するために「近代部会クラウド」を構築し、運用を始めた。

3, 令和6年度の活動予定

(1) 4回の近代部会(6月、9月、12月、令和7年3月)及び2回の合同調査(9月、3月)を実施する。

(2) 9月17～19日、四万十市・宿毛市・大月町・土佐清水市において、巡検を含めた資料調査を実施する。

(3) 第2巻の内容構成案をさらに詰めて、編集委員会に提案できるようにする。

(4) 調査資料の撮影を持続的に進める一方、さらに県内外の所在資料の調査を続け、それらの成果を「近代部会クラウド」に載せ、編集資料の活用に供する。

(5) 第2巻に掲載される資料や、この時代を代表する基幹資料(民権記念館所蔵の「細川義昌日記」)の翻刻作業を順次進めていく。

1 主な調査活動（資料・文献及び聞き取り調査）

（1）部会全体での合同調査の成果

- ①期間 令和5年8月28日から8月31日（夏季）
令和6年3月26日から3月28日（春季）
- ②地域 県西部（特に幡多地域）
- ③方式 聞き取り調査と資料調査を組み合わせたフィールドワーク
- ④内容 現地を訪問してフィールドワークを行い、聞き取りと資料調査を重ねるなかで、幡多地区の人びとがかかわってきたくらしのさまざまな輪郭が見えてきた。
市町村(地方自治体)、地域の担い手団体（駐在保健婦、集落活動センター、地域の交流館など）、民間の教育施設（幡多ゼミナール）など、くらしを支える多様な担い手の役割がよく見えてきた。
この調査は、「くらし」を軸に資料・文献調査を重ね、資料編や本編を構想する現代部会の今後の方向性についても大きな示唆を得るものだった。
- ⑤予定 令和6年度は県東部(安芸市や室戸市など)にて実施する。

（2）委員個別調査による成果（特に移動・移民に関すること）

- ①期間 令和5年11月・令和5年12月・令和6年6月
- ②地域 県西部・県東部・関西地域(京都府・大阪府・兵庫県)・神奈川県
- ③方式 聞き取り調査と資料調査を組み合わせたフィールドワーク
- ④内容 高知県では、戦時中に満州移民、戦後は南米移民が行われている。満州移民の引き揚げと南米移民は、現代部会の重要な検討課題であり、とくに満州移民の引き揚げとその後のくらしについては、幡多地区で大事な聞き取りと資料調査を行うことができている。
調査の過程では、戦後の高知県における関西地域や神奈川県の上三浦半島への移動も明らかになった。
たとえば、四国銀行は関西の大阪府守口市にも支店があり、これは県東部（とくに東洋町など）の人びとの関西への移住が大きく関係していることが調査にて分かってきた。
また、上三浦半島には、高知の遠洋漁船の基地があり、家族で上三浦へ移住するなど、遠洋漁業に携わる人びとと密接な関係をつくっている。
県外に出た高知の人びとは、郷里との関係(経済面を含む)を長く保っており、これまで、従来あまり知られていない事柄も現代部会の調査にて判明しつつあり、県史の調査で詳細を明らかにしたい。

(3) 資料調査

オーテピア高知図書館などで所蔵されている高知県現代史の文献と資料調査を進め、県内各地域の図書館・資料館、行政機関、業界団体、企業、協同組合、学校等についても資料の所在確認を進めている。

また、県外においても資料調査を実施し、国立国会図書館のプランゲ文庫や、関西地域を中心として、各地域の高知県人会への調査を進めている。

(4) 講座開催（担い手育成）

①日時 令和5年12月15日及び12月16日

②内容 オーラルヒストリーに関する聞き取りと記録に関する講義
調査の担い手を広げるために、聞き取りと動画撮影の講座を開講し、県内大学生を中心に、オーラルヒストリーに関すること、それを文字媒体及び動画として記録に残すことについて講座を開催した。

2 資料編・本編の構成

(1) 資料編編さんの方針

この間の合同調査の成果などをふまえ、現代部会が編さんする資料編3冊、本編1冊のうち、資料編3冊について協議を進めている。

その結果、現代部会の資料編3冊については、「くらし」を巻構成の軸に掲げる方針をもつに至った。

これは、現代部会内で協議し、高知県史編さん編集委員会で方向性を確認いただいたものである。

「くらし」は、「高知県史編さん基本方針」に掲げられている「方針」でもあり、ここでは、高知県の現代を明らかにする総合的・包括的な視点として設定する。

資料編には、政治から経済、社会、文化に至る広範囲な領域の資料を「くらし」の視点から重点収録する。

(2) 資料編全3巻の構成

各巻は2部構成とし、第1部には広義の「くらし」の視点により高知県全体の資料を、第2部には各地域の資料を収録する。

○第1巻

第1部に、戦後全体にわたる資料を重点収録し、第2部に、高知県西部の資料を戦後全体にわたり重点収録する。

○第2巻

第1部に、高知県の戦後前半期の資料を収録し、第2部に、高知県東部の資料を戦後全体にわたり重点収録する。

○第3巻

第1部に、高知県の戦後後半期の資料を収録し、第2部に高知県中部の資料を戦後全体にわたり重点収録する。

以上の資料編の構成により、資料を通じて戦後の県民が紡いできたくらしのあり様を、経済、政治、文化に至る広範な領域から明らかにする。

第3回高知県史編さん委員会考古部会資料

令和6年7月24日(水)

活動報告

4月3・4日 部会事務局協議

4月6日 第1回部会会議(令和6(2024)年度春期部会)

①これまでの部会準備調査について(報告)

②資料編1 令和6年度調査遺跡・遺物リスト作成について(審議)

旧石器・縄文時代は最大23遺跡、弥生時代は最大30遺跡、古墳時代は最大27遺跡

③各時代の遺跡と遺物からみた高知県の歴史について(審議)

④クラウドによるデータの共有とコミュニケーションの方法について

⑤令和6(2024)年度調査予定の確認

4月7日 令和6(2024)年度春期部会調査

不動ガ岩屋洞窟(縄文)・居徳遺跡群(縄文～古墳)・朝倉神社と朝倉古墳(古墳・古代)・大寺廃寺跡(古代)・秦泉寺廃寺跡(古代)・木塚城跡(中世)・鎌田井堰(近世)、高知市春野郷土資料館

★主な審議内容

居徳遺跡群の古墳時代祭祀、花粉分析などの古環境と放射性炭素年代測定による客観データ取得、光拓本(奈良文化財研究所と文化財活用センター)や、すでに遍路札所寺院調査や香南市の鬼ヶ岩屋洞穴遺跡などで取り組まれている遺跡や遺物の3次元データ取得とその活用、不動ガ岩屋洞窟・宿毛貝塚・龍河洞の資料編における学史としての位置づけと編集、本編に向けた重要遺跡についての歴史文化財課との連携、県内の埋蔵文化財調査実績報告、県東部地区の調査、本編に向けた読者のターゲットについての検討、条里や歴史地理の検討、墨書や刻書資料などの古代・中世部会との連携、高知城下の調査のデータの確認および近世部会との連携、秦泉寺廃寺(高知市)の資料調査、他部会との共同調査や研究会などの連携、他部会委員との個別連携

4月27・28日 中世山城調査(四万十市など)

5月1日 第2回部会(リモート)共有フォルダとチャットによる情報交換開始

5月16日 掲載予定遺物を県歴民から県センターへ移動→補助員さんによる実測予定

6月11日 第3回部会(リモート)編集委員会資料と調査協力者の承認

6月13日 古代・中世遺跡調査(香南市)

6月14～16日 近世墓調査(四万十町など)

6月17・18日 縄文時代遺物調査(四万十町など)

6月末 旧石器・縄文時代の掲載遺跡候補リスト完成

9月初旬予定 第4回部会(リモート)今年度前半期の報告と後半期の調査について

9月23・24日予定 第5回部会会議・調査(令和6(2024)年度秋期部会)



令和6年度春期部会調査風景(高知市朝倉古墳)



中世山城調査風景(四万十市手洗川城跡)

考古部会の編集編さんコンセプト

海・山・河と多彩な地形に恵まれた高知県は、様々な地域で、その地に根付いた人々の歴史が育まれてきた

- 1、観て歩いて、歴史を実感する遺跡や遺物の新たな意味と価値をわかりやすく語り、それらが地域の活性化に資する魅力的な宝であることを県民と共有する
- 2、そのためにデジタルコンテンツの作成と活用をすすめ、積極的な情報発信をおこない、高知県の魅力を全国に広める

I、資料編の掲載遺跡計画

(1巻がA4版800頁とした場合の1遺跡あたり3頁平均以下の掲載遺跡最大数)

編集方針と構成

①これまでの調査と研究の成果の総括

②現時点での価値付け(自然科学調査を含む)

③地域の貴重な社会資源であることの明示

資料編1→旧石器・縄文(67)+弥生(91)+古墳(109)

資料編2→古代(75)+中世(225)+安土桃山(13)

資料編3→近世(63)+水中遺跡(海)+戦跡および近代化遺産

資料編3には遺跡以外に石造品(含遍路関係)などの個別資料なども掲載

(注)各編には学史および総括なども含まれる

II、調査計画

1、毎年の基本的な計画

- (1) 春期と秋期に県内の重要遺跡確認調査を兼ねた調査報告と翌年度の調査計画全体会議
- (2) 部会内のリモート会議とチャットは随時
- (3) 部会委員は各自の予定で個別調査
- (4) 部会長は部会全体会議と部会委員の県内調査に参加、および戦跡・水中遺跡・石造品
- (5) 副部会長は山城調査を優先、部会全体会議と県外学史調査(岡本文化財部会長と協同)

2、資料編1刊行へ向けた期間の調査計画

- (1) 学史史料関係(県外・県内・寺石資料)
- (2) 旧石器・縄文時代、弥生時代、古墳時代→全体会議と部会委員の個別調査
- (3) 古代→全体会議と資料編2の準備調査
- (4) 中世→全体会議と山城調査と資料編2の準備調査
- (5) 近世以降→全体会議と資料編3の準備調査(※京大が北部構内の幕末土佐藩邸調査)
- (6) 戦跡・水中遺跡。石造品など→事務局と調査補助員および部会長による基盤情報調査

3、2024令和6年度後半期調査予定

秋期部会全体会議+宿毛貝塚視察(9月23・24日)

①部会委員調査報告

②各時代の遺跡と遺物からみた高知県の歴史について(含発掘調査)→意見交換

③資料編1令和7年度調査遺跡・遺物リスト作成報告

旧石器・縄文時代は最大23遺跡、弥生時代は最大30遺跡、古墳時代は最大27遺跡

④資料編2・3掲載遺跡・遺物リスト作成経過報告

⑤2025令和7年度調査計画→確認

4、本編に向けた調査計画

- (1) 歴史文化財課と協同で重要遺跡の検討(一例として古代寺院・中世居館など)
- (2) 歴史文化財課と協同で県内文化財の災害時対応についての検討

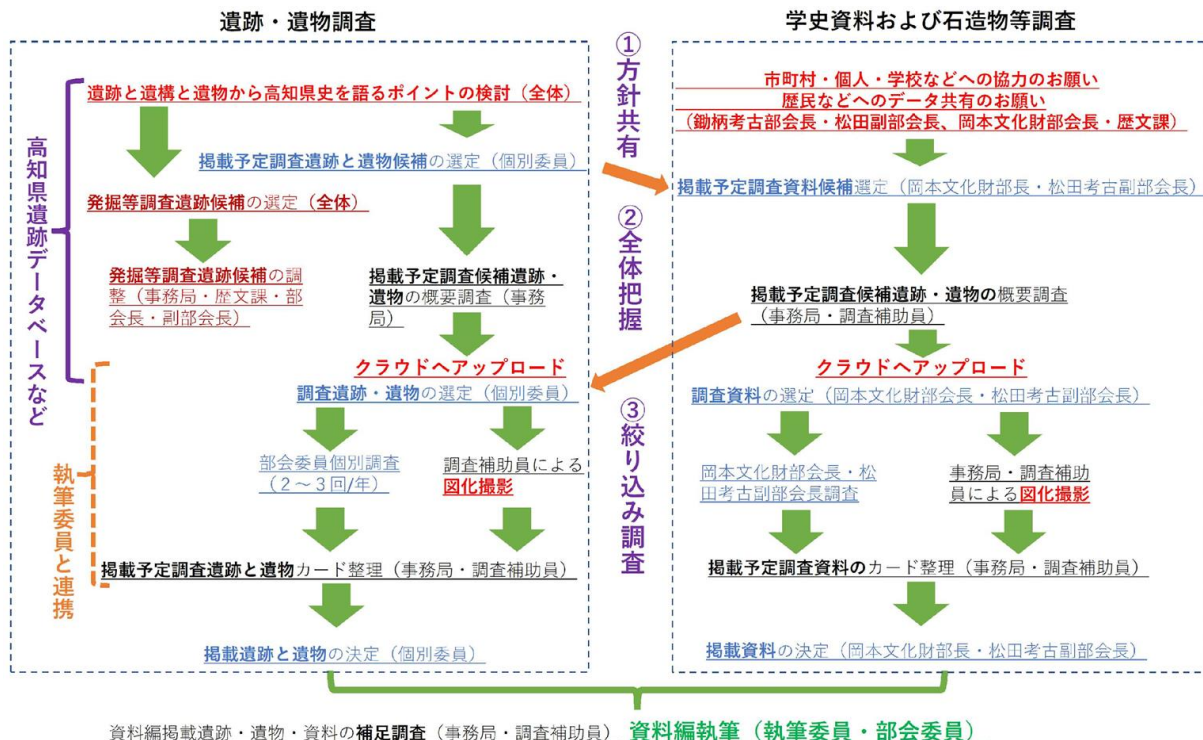
5、成果公開に向けた調査計画

- (1) 県歴民、センター等での企画展および巡回展に向けた考古名品展資料の選定
- (2) 公開シンポジウムの開催

Ⅲ、調査手順

- 1、部会会議で掲載予定の遺跡、学史資料、個別資料を選定
- 2、事務局調査担当が選定遺跡・学史資料・個別遺物の網羅的撮影
- 3、事務局調査担当が撮影した画像を部会クラウドにアップ
- 4、クラウド上のデータを部会委員が検討して、新規図化・撮影資料を選定
※適宜に部会委員間でリモート協議
- 5、調査補助員が図化または撮影
- 6、フォーマットに従い部会委員・執筆委員・事務局がデータ入力
- 7、時代毎の総括を部会で検討
- 8、編集

★調査に際しては、市町村および執筆委員との密接な連携をはかる



（参考）資料編と本編の編集編さんの考え方について

資料編はこれまでの調査と研究の成果を総括することで、現時点での価値付けにより地域の貴重な社会資源であることの明示を基本とします。

通史編は資料編での総括をふまえ、発掘調査等によって得られる新たな知見と、資料編の「報告資料」「学史資料」「個別資料」を総合した解釈による、新しい高知県史を叙述します。

また県史の調査を通じて明らかにされる県内各地の遺跡・遺物の新たな価値付けをもとに史跡・重要文化財指定をめざす働きかけを県と協同でおこないたいと思います。

（参考）県歴史民俗資料館企画展との連携



資料編と本編の編集編さんイメージ

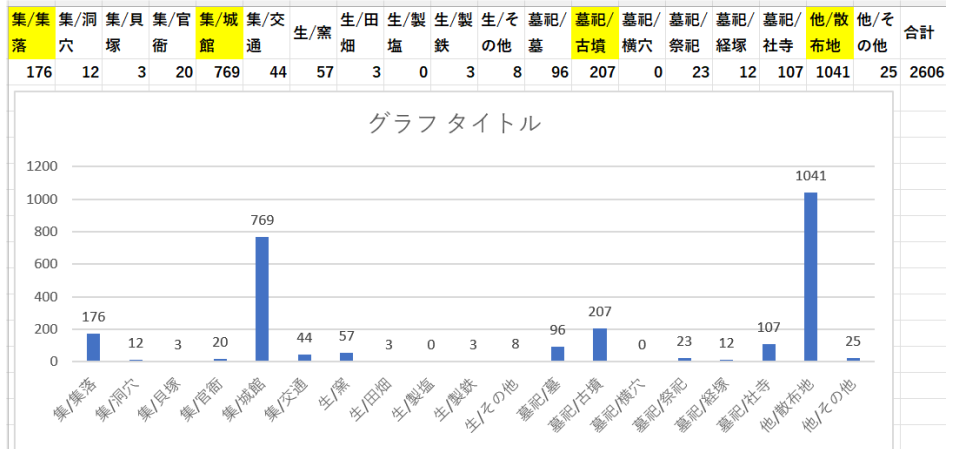
※ここに示す「基本遺跡情報」は、歴史文化財課の「高知県文化財地図情報システム」のデータをベースにしています

1、基本遺跡情報 (20221226時点)

(1) 合計数2606カ所
(非散布地は約6割)

(2) 基本補正非散布
遺跡数 (旧石器以外を
非散布地比率で補正)

旧石器 (17)、縄文
(193) 弥生 (288)、
古墳 (345)、古代
(290)、中世 (861)、
安土・桃山 (38)、近世
以降 (191)



2、資料編掲載遺跡数の算出

(1) 前提としての先行事例の1遺跡平均ページ数

青森県史と愛知県史の1遺跡あたり記述は平均3頁

(2) 資料編の掲載遺跡数の目安

①資料編1→旧石器・縄文 (210) + 弥生 (288) + 古墳 (345) = 846非散布地遺跡

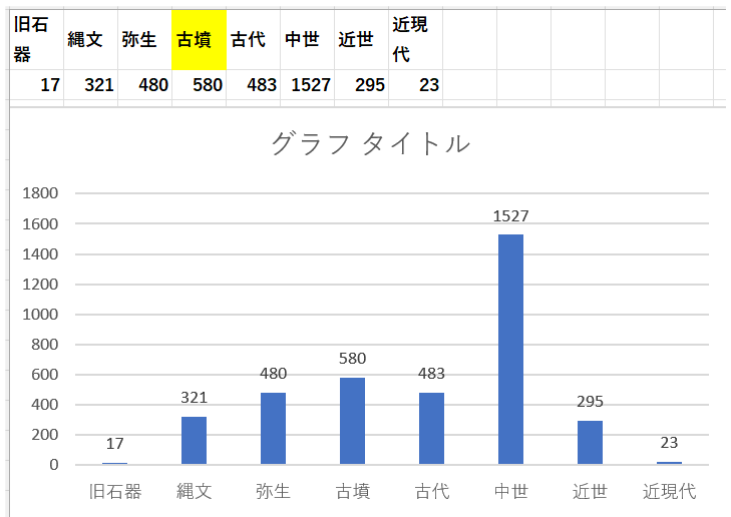
1遺跡あたり3頁平均時の掲載遺跡数→旧石器・縄文 (67) + 弥生 (91) + 古墳 (109)

②資料編2→古代 (290) + 中世 (861) + 安土・桃山 (38) = 1189非散布地遺跡

1遺跡あたり3頁平均時の掲載遺跡数→古代 (75) + 中世 (225) + 安土・桃山 (13)

③資料編3→近世 (191) = 191非散布地遺跡

1遺跡あたり3頁平均時の掲載遺跡数→近世 (63) + 石造品 + 戦跡 + 水中遺跡など



3、資料編の時代毎の遺跡の調査計画

(1) 旧石器・縄文時代は最大67遺跡を選び記述する。

年間最大23遺跡の調査を基本フォーマットにより3年間行なう。

(2) 弥生時代は最大91遺跡を選び記述する。

年間最大30遺跡の調査を基本フォーマットにより3年間行なう。

(3) 古墳時代は最大109遺跡を選び記述する。

年間最大27遺跡の調査を基本フォーマットにより4年間行なう。

(4) 古代は最大75遺跡を選び記述する。

年間最大25遺跡の調査を基本フォーマットにより3年間行なう。

(5) 中世と安土・桃山は最大238遺跡を選び記述する。

年間最大34遺跡の調査を基本フォーマットにより7年間行なう。

(6) 近世以降は最大76遺跡を選び記述する。

年間最大25遺跡の調査を基本フォーマットにより3年間行なう。

※資料編3の石造品・戦跡・水中遺跡などの調査期間は算定できないため2024年度から開始

(注) 安土・桃山時代について
ここで表記した時代名称は、
基盤情報である「高知県文化
財地図情報システム」に従って
います。

県史では中世と近世の境は、
長宗我部氏から山内氏へ変わる
時期とします。

そのため、ここで示す安土・
桃山時代は中世のあつかいとな
ります。

4、編集編集のポイント

(1) 資料編

客観的評価により新規性を加えた既存情報の再評価とその時代ごとの総括

- ①時期の認定（年代測定などの自然科学分析を含める）
- ②遺物の種類や形式と型式・様式等の認定（数量化なども含める）
- ③遺跡の種類と性格のをふまえた歴史的な意味の認定（遺構の配置と構成要素の記述）

(2) 本編

新情報を加えた新たな歴史叙述

県歴史文化財課および市町村と連携した重要遺跡発掘調査等への協力

5、資料編の構成案

(1) 資料編 1

高知県の考古学研究と調査の記録（100頁）、編年、概説（主に全体を俯瞰した分布と数量）、旧石器・縄文時代67遺跡と総括（200頁）、弥生時代91遺跡と総括（272頁）、古墳時代109遺跡と総括（328頁）、掲載遺跡毎の先行研究リスト、合計最大900頁

※「高知県の考古学研究と調査の記録」は3巻に分割する可能性があります

(2) 資料編 2

編年、古代75遺跡と総括（290頁）、戦国時代までの225遺跡と総括（675頁）合計最大900頁

(3) 資料編 3

編年、安土桃山・江戸以降76遺跡と総括（200頁）（高知城と城下町・野中兼山関係・遍路関係）＋戦跡、水中遺跡、遺跡以外の重要遺物（石造品、金属製品、金石文関係、石碑、棟札など）、資料編 1・2 未掲載の国と県の史跡と指定考古文化財など）合計最大900頁

※石造品は34市町村で合計100頁以上で量が読めず、金属製品や石碑データも含めて2024年度から全体調査をすすめる必要があり、状況は戦跡と水中遺跡についても同様である。

6、本編の構成案

(1) ストーリー

人類のあけぼの、古代国家の成立、南海道ネットワーク、長宗我部の時代、山内の高知城・・・大きな変遷の中で地域毎（郡毎）の書き方もありか

(2) 新規性

A、旧石器から古墳時代

資料編 1 の調査・執筆に見通しがついた時期から 4 年間（2028R10～2031R13年度）で重要遺跡の発掘調査等に協力し、その成果をふまえた新たな歴史を叙述する。

B、古代から中世

資料編 2 の調査・執筆に見通しがついた時期から 4 年間（2032R14～2035R17年度）で重要遺跡の発掘調査等に協力し、その成果をふまえた新たな歴史を叙述する。

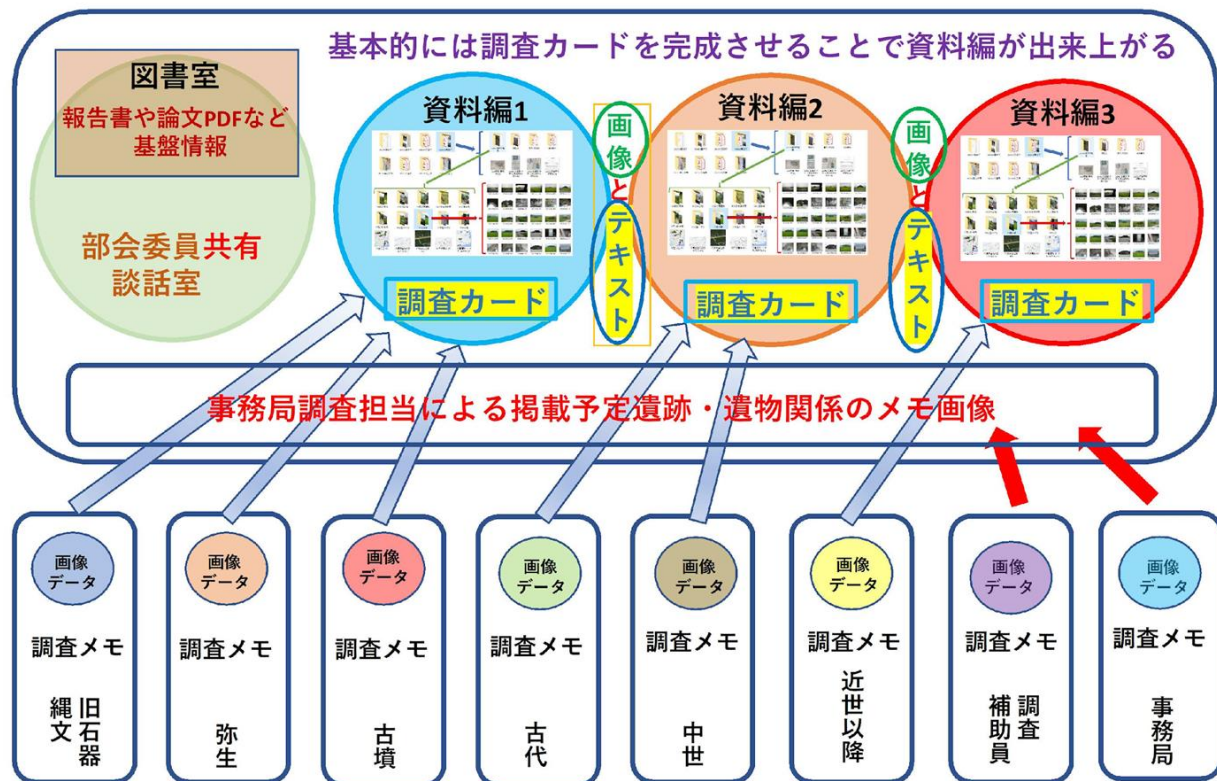


3D参考資料

平成22年度史跡岡豊城跡
赤色立体地図

南国市教育委員会『史跡岡豊城跡保存管理計画書』平成24年3月

高知県史考古部会クラウドイメージたたき台



考古部会スケジュール構想

[illegible]

高知県史民俗部会の活動・計画について

1. 前回編さん委員会以降の民俗部会協議について

令和 5 年 12 月 25 日(月) 第 6 回民俗部会

- ・ 民俗編本編の構成と、調査計画の分担について。
- ・ 梲原町合同調査の成果共有。

令和 6 年 2 月 26 日(月) 第 7 回民俗部会

- ・ 民俗資料編 1 「ことばと伝承(仮)」の構成と、調査計画について。
- ・ 新規民俗部会委員について。
- ・ 調査にあたっての協力者について。

令和 6 年 5 月 20 日(月) 第 8 回民俗部会

- ・ 令和 6 年度の計画について。
- ・ 民俗資料編 1 「ことばと伝承(仮)」に向けての調査計画について。
- ・ 本編における「民俗地図」作成に向けたアンケート調査について。

2. 梲原町合同調査について

令和 5 年 10 月 29 日(日)～11 月 1 日(水)

- ・ 民俗部会委員と事務局、資料編 1 の地名の章担当の楠瀬慶太氏、奥四万十山の暮らし調査団にて、梲原町合同民俗調査を実施した。
- ・ 伊予との境に接する山間部での暮らしについて聞き書きを実施した、また、地名の収集や、津野山神楽の調査を行った。



《津野山神楽にて：子供を抱いて踊る大蛮》



《実地調査の様子》

3. 民具調査について

令和5年3月6日～7日 中土佐町鎌田民具調査

- ・中土佐町久礼の民具倉庫にて、中村委員、國學院大學の石垣悟准教授、東京文化財研究所の職員、県内大学生と國學院大生のアルバイトが参加した民具調査を実施した。
- ・前年度3月に実施した同地での調査の成果と合わせ、今回の調査によって民具倉庫内の民具資料796点全ての写真撮影とリスト作成を完了した。



《作業風景》

4. 民俗資料編1「ことばと伝承(仮)」に向けての取り組みについて

- ・令和9年度刊行の民俗資料編1「ことばと伝承(仮)」では「民話」「民謡」「地名」を扱う。
- ・令和6年7月2日(火)に、各章の担当者による対面での協議を実施し、今後の作業計画の共有、章立ての確認、段組、構成等の検討を行った。
- ・「民話」の章編集に向け、県内の民話集等の文献のリスト化作業を事務局で行っている。
→対象55冊のうち、31冊のリスト化が完了。単行本は今年度中のリスト完成を目指す。
県立文学館所蔵の故・市原麟一郎氏が民話調査で記録した録音テープについても調査を進める。
- ・「地名」の章編集に向け、担当者が設定した地域での実地調査と、文献を参照しての地名データの集積を行っている。
→文献をもとに、高知県内から現在116,413の小字名データを集積。

5. 今後の予定について

今後の部会協議スケジュール

- ・令和6年7月31日(水)の第9回民俗部会を含め、令和6年度内にさらに4回の部会協議を実施予定。

東洋町合同調査

- ・令和6年10月31日(木)～11月4日(月)にかけ、東洋町にて民俗部会委員による合同民俗調査を予定している。
- ・民俗本編の編集に向け、県東部の沿海部の民俗を把握する足がかりとする狙い。

民俗部会各委員による個別調査予定

- ・ 常光部会長：三原村をはじめとした地域での伝説についての实地調査と写真撮影。
- ・ 佐藤副部会長：民俗芸能と青年集団の関係について東洋町や鶴来島、梶原町にて調査。
- ・ 飯高委員：津野町にて山村の暮らしや茶畑などの文化的景観の維持について調査。
- ・ 川島委員：珊瑚漁などを例として、室戸、足摺両岬の漁業者の関わり合いについて調査。
四万十市の下田等、四万十川の河口域にて实地調査。
- ・ 安室委員：民俗地図作成に向けたアンケート調査の準備。
- ・ 山本委員：大月町柏島の公民館が出している子供向けの刊行物から地域の民俗を調査。
四万十市中村の図書館所蔵の写真資料の調査。
- ・ 中村委員：四万十町大正での民具調査。
中土佐町久礼での民具調査の成果を元にした聞き書き調査。
- ・ 梅野委員：梶原町川井の「おごけ神楽」等、県内の祭礼について实地調査。

県史編さん事務局 活動報告

1. 歴史資料の調査

(1) 所在調査

県内の各市町村を訪問し、歴史資料の残存状況の概要を把握

⇒令和6年2月までに、県内34市町村の調査が完了

<課題>

- ① 平成の合併を経た市町村は、旧市町村の資料情報を十分に把握しきれていない
- ② 前回の『高知県史』(昭和40年代)編さんで把握した歴史資料について、現時点で相当数が所在不明の状況

【令和6年度】

- ① 合併前の旧市町村へ追加調査を実施
 - ⇒ 香美市、室戸市、大豊町で実施済 (R6.6 現在)
 - (事例) 香美市で『土佐山田町史』編さん時に収集した資料群(写)を確認
室戸市で旧佐喜浜村の議会資料、旧津呂村・羽根村の行政資料を確認
- ② 各市町村への追加調査などに併せて追跡調査を継続

(2) 予備調査(事前調査)

各専門部会委員の要請などを受け、事務局による予備調査(事前調査)を実施

(実施例)

近代部会

旧制中学校、高等女学校などの学校資料の資料残存状況を把握

現代部会

委員による資料調査を効果的に進めるため、調査地を事前に訪問し、ヒアリングと資料情報の概要把握

(幡多地域の集落活動センター、国保病院、市町村議会事務局など)

(3) 資料情報のデジタル化と共有

各専門部会や事務局による調査は「高知県史編さん基本方針」に基づき、原則としてデジタルデータとして資料を収集。

収集した資料は、クラウドサービスの活用により、編さん関係者で容易に共有できるようシステム化を進めた結果、今後の作業の効率などが期待できる。

【クラウドサービス導入の効果例】

- ① 業務の省力化（物理的なデータ送付・受理の時間の節減など）
- ② 編集作業の迅速化（クラウド上での一元的な資料データ確認、作業実施など）
- ③ 安全性の向上（高度なセキュリティが施されたクラウドでのデータ保管など）

2. 広報啓発

（１）文化広報誌「とさぶし」での紹介

文化広報誌「とさぶし」を活用した広報の展開

（「つないで つむいで 県史編さん室」）

令和５年度は計４巻発刊、発行１０,０００部

（図書館や道の駅などの公共施設、商業施設などに幅広く配布）

文化広報誌「とさぶし」県史特集記事一覧（R5）

発行日 号数	全体テーマ	県史編さん室のページ		もの語			特集ページ	
		部会	内容	部会	場所	内容	部会	内容
R5. 6 (43号)	各駅停車で行こう	古代中世 現代	古代・中世部会の発足 現代部会の発足	民俗	中土佐町	鎌田港の民具調査	近代	交通の近代化を推し進めた 土佐人（野村茂久馬氏）
R5. 9 (44号)	あまいお接待	古代中世	東京大学史料編纂所での資料調査 井上部会長（古代中世）の体験	（県史 全体）	東京都	土佐和紙を活用した史料補修 作業 （東京大学史料編纂所）	近世	艶やかで楽しい土佐の甘味の 足跡 （山内家史料、菓子舗資料）
R5. 12 (45号)	自転車	現代	現代部会の資料調査 大門部会長・岩佐副部会長の体験	近代	安芸市	明治大正期の役場文書 （旧川北村） （安芸市立歴史民俗資料館）	民俗	先生の紙芝居 土佐民話は続く （市原麟一郎氏）
R6. 3 (46号)	映画	古代中世	事務局の予備調査 （津野町 吉門家文書）	現代	四万十市	海外移民（旧満州）関係資料 （権谷せせらぎ交流館）	民俗	地域の歴史が記録される映画 （いの町吾北地区の映画記録）

【令和６年度】

- ・引き続き、計４巻を発刊予定
- ・新たなSNSを活用した情報発信の強化（県史特集を含む）

（２）資料調査の成果を広く紹介する小冊子の発行

編集委員会での議論を踏まえ、次のとおりレイアウト等を決定。

〔コンセプト及びターゲット〕

- ・新たに確認された魅力ある歴史資料の紹介
- ・画像を多く掲載し、歴史に詳しくない人にもわかりやすい内容

〔構成〕

A 4 版フルカラー16 ページ

（表紙・裏表紙＋各専門部会× 2 ページ＋事務局 2 ページ）

〔発刊日時、部数〕

令和 7 年 3 月に 3, 000 部を発刊予定

（３）成果報告会の開催

県立文化施設の講座や地元自治体との共催により、県史編さんの目的や資料調査の成果について、次のとおり報告会を実施。

大津地区の古文書目録刊行記念シンポジウム「土佐清水の歴史を編む」

開 催 日：令和 5 年 11 月 11 日(土)

主 催：高知地域資料保存ネットワーク

会 場：土佐清水市立中央公民館

参加者数：約 60 名

報告内容：『高知県史』編さんと史料所在調査について

令和 5 年度第 2 回 高知城歴史博物館出張講座

開 催 日：令和 6 年 2 月 18 日(日)

主 催：高知県立高知城歴史博物館

会 場：芸西村村民会館

参加者数：約 70 名

報告内容：「久重会に関する調査内容について」（現代部会委員）

「久重山集落の調査内容について」（事務局職員）

会場に展示された芸西村調査(山中家資料)の
実物資料

写真奥は資料調査の様子

同手前は資料保存箱と調査カードの展示



3. 人材育成

(1)「歴史資料調査隊」養成講座の開催

歴史資料調査の目的や方法を手ほどきし、調査に従事できる人員を育成するため、次のとおり養成講座を開催。

修了者のうち希望者は、会計年度任用職員（日々雇用）として採用し、県内各地での資料撮影調査やデータ整理業務に従事。

〔第1回〕

実施日：令和5年12月16日(土)～17日(日)

修了者：7名

講座内容：資料撮影（動画）及び聞き書き

〔第2回〕

実施日：令和5年2月16日(金)～17日(土)

修了者：10名

講座内容：資料撮影（静止画）

(参考)「歴史資料調査隊」養成講座の様子



(左上)資料整理の用具(こより)作成
(左下)撮影機材の説明



(右上)資料の取扱方法の説明
(右下)原本資料を実際に撮影

【令和6年度】

昨年度に引き続き、次のとおり開催を予定。

〔第1回〕

日 時：令和6年6月29日(土)～30日(日)

修了者：10名

講座内容：資料撮影（静止画）

史料解説は初開催

〔第2回〕連続講座（4回）

日 時：令和6年7月13日(土)・20日(土)

令和6年8月10日(土)・24日(土)

定 員：10名

講座内容：史料解説（くずし字）、調査カード作成

（2）地元高校生の体験見学会

本県の歴史や編さん業務に関心を持ってもらうため、高等学校長協会長にご協力をいただき、次のとおり体験見学会を開催。

実施日：令和6年3月11日・12日・14日（3回に分けて実施）

内 容：歴史資料の取扱い体験、撮影体験、事業説明

参加者数：14人(高知追手前高校・1～3年生)

歴史資料の原本(実物)に実際に触れる貴重な機会でもあり、生徒からはとても好評であった。

本県の歴史により興味を持ってもらうだけでなく、実際にどのように歴史が編さんされるかを知っていただく貴重な機会でもあるため、今後とも継続して実施していきたい。

参加した高校生からの声（一部抜粋）

高知県の歴史についてどんなところに興味がありますか。

- ・山内家が治めた時代に、土佐藩を変えようと尽力した志士たち
- ・自分の生まれ育った地がどのような歴史を刻んできたのか
- ・自分の知らない、地域の一面を知りたい

(参考)地元高校生を招いた事務局調査の体験見学会の様子



(左)県史編さん事業の説明



(右)実物資料を使用して取り扱いの解説